

10年後見据え元気に

健康増進へ知見深める

OCHIS

NPO法人(特定非営利活動法人)ヘルスケアネットワーク(OCHIS、武田裕理理事長、大阪大学名誉教授)は11月15日、「今こそ10年後を見据えた元氣集団をつくる!」と題したセミナーを開催した。行政、

学術研究者、運送事業者がそれぞれの取り組みを紹介。「従業員の健康が会社としての健康」を共通の問題意識として、健康増進に向けて知見を深めた。

武田理事長は「OCHISが創設された30年以上前に比べ、運輸業界を取り巻く環境は大きく変化した。ドライバー不足や燃料費の高止まりといった課題が山積している。しかし、こうした時だからこそ前を向い

て物事を考えていきたいという思いを込め、テーマを設定した」とあいさつした。第1部では、国土交通省



「前を向いて物事を考えていきたいという思いを込め、今回のテーマを設定した」と武田理事長

物流・自動車局の永井啓文安全政策課長、全日本トラック協会の齋藤晃交通・環境部長、大原記念労働科学研究所の酒井一博氏がそれぞれ講演。

第2部で、トレンディ茨城の谷萩寛子常務が「健康経営への取り組みから生まれた従業員に寄り添う健康づくり」をテーマに自社の事例を紹介。このほか、OCHISの安島なつき保健師、黒田悦子保健師が、定期健康診断をフォローアップする「運輸ヘルスケアナビシステム」などのデータを活用した健康管理対策を説明した。

講演後、作本貞子副理事長は「運送業界は中小零細事業者が9割を占め、健康づくりまでは手が回らないという声も聞く。しかし、行政による助成や各種団体による相談事業も増えている。できることから始めて、情報をフルに活用することで元氣集団を構築することができるとはならないか」と総括した。

その後、武田氏、作本氏や講演で登壇したメンバーが参加するパネルディスカッションを開催。「健康情報の取り扱いと有効活用」をテーマに、活発な議論が展開された。(黒須晃)